3 防災訓練や研修会等の住民参加型の行事を実施していますか?

災害に対する正しい知識があっても、いざ直面した時は、自分自身が被災をしたり、ケガなどで動揺したりして、なかなか頭で思うような行動は取れないものです。災害時に適切な行動をするためには、普段からの訓練で体を動かして実践しておくことが大切です。訓練のほか、住宅の耐震化や家具転倒防止対策の啓発といった日常の活動を通じ、住民同士の顔の見える関係づくりが災害時の円滑な活動につながります。

●取り組み事例

マンションでの防災訓練

■階段を使った搬送訓練

■隔て板(蹴破り戸)の破壊体験

住民参加型の防災運動会

■バケツリレー

■簡易担架での搬送リレー

学校での避難所体験や炊き出し訓練

■避難所体験

■炊き出し訓練

避難所宿泊体験では…

泊まることによって、避難所生活の大変さや、非常持ち出し品の準備の大切さや、自宅に戻れるよう、住宅の耐震化や家具転倒防止対策等の必要性を実感する、等の効果が期待できます。

備える ポイント!

行事を通して地域コミュニティづくりをしましょう。
防災訓練等のイベントは、地域住民に自分が自主防災組織の一員であることを自覚してもらう良い機会であると同時に、交流を深める貴重な場となります。まずは地域の皆さんが参加しやすいように、**楽しみながら防災に取り組める、イベント的な要素を盛り込む**と良いでしょう。毎年の恒例イベントとして、夏祭り等の他の行事と合同で開催する等工夫し、一過性でなく、**継続していくことが大切**です。

■消火器を使った的当てゲーム

4 防災マップを作成していますか?

地域の危険な箇所、防災施設、避難所、井戸、公衆電話、災害時における徒歩帰宅支援ステーションなどを盛り込んだ地域の防災マップを住民の皆さんで協力して作成しましょう。作ったマップは回覧板で配布したり、集会所に張り出したりして、地域のみんなの目で見てもらいましょう。

＜名古屋市南区　星崎学区連絡協議会の取り組み＞

星崎学区連絡協議会では東日本大震災を教訓に、南海トラフ巨大地震への備えから、地域の見直しを行いました。この地域は海抜ゼロメートル地帯が多く、津波や液状化現象の心配や、耐震構造が十分でない家屋の倒壊も多く発生することが予想されています。そこで協議会では消防団員と学区役員とが中心となって、「手づくり防災マップ」作りに取り組みました。

星崎学区連絡協議会の活動記録や作成した防災マップのほか、コンテストで優秀作品に選ばれた防災マップ等が多数紹介されています。
防災コンテスト　ホームページ　https://bosai-contest.jp/

備える ポイント!

防災マップを作成する際には、大人だけでなく、**子どもたちの意見も聞いて作成**すると、地域全体で防災意識の高まりを期待できます。また、定期的に再確認したりして**新しい情報に書き換えておくことも必要**です。